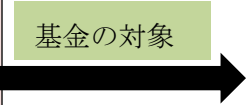


# (仮称) 亀岡協働基金概要 (案)

NPO の現状  
①安定型  
②発展志向型  
③確立発展型



基金の対象

(仮称) 初めての寄附活用コース (資金) + 寄附集め講座 (非資金)

(仮称) マatchingコース (資金) + 人材支援 (非資金)  
※マatching=実施団体が集めた寄附+同額の市からの助成  
例) 寄附 10 万円+市助成 10 万円=20 万円  
【効果】 NPO が資金集めを行う姿勢が構築できる

市助成財源確保の視点 (検討)  
・ 1%支援制度の応用  
・ ふるさと納税活用

寄附増額に向けての視点  
【短期】  
・ 公共施設の自販機  
・ 遺贈  
【長期】  
・ 寄附教育・文化

寄附募集の方法  
・ 実施事業を明示して募集  
・ 継続的に入る寄附の配分方法は今後協議

運営体制 ※体制検討の詳細は別紙参照  
仕組みの構築、選考等の事務 = (仮称) 亀岡協働基金運営委員会  
事務局; 立ち上げ時 亀岡市市民協働課  
寄附の集まりとともに NPO 等へ移行  
寄附金管理、税控除等の事務 = (公財) 京都地域創造基金



基金との連動  
・ 円卓会議のような場の構築  
☆ 個人では解決できない課題の持ち寄り  
☆ 解決に向けた取り組みが実施されていない課題の支援  
⇒行政による支援が困難な領域を支えるための基金の活用

成果指標の見直し

アウトプットからアウトカムへ  
・ 勉強会開催  
(マatching導入時にスタート)

アウトカム = 課題解決の効果・成果  
例) 交通事故の減少

アウトプット = 直接の成果物  
例) 歩道を 500m設置

補助金の交付を後出し型 (投資型) にすることを検討 (5年後を目処)  
例) SIB (ソーシャル・インパクト・ボンド イギリス)  
SIB = 行政サービスを民間の NPO 等に委託。事業経費は投資により調達。事業が成果を挙げた場合にのみ、削減された行政コストに基づいた報酬を投資家に支払う仕組み